

平成22年3月期 第3四半期決算短信

平成22年1月28日

上場会社名 エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社
 コード番号 8242 URL <http://www.h2o-retailing.co.jp/>
 代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 若林 純
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員 (氏名) 森 忠嗣
 四半期報告書提出予定日 平成22年2月12日
 配当支払開始予定日 —

上場取引所 東大

TEL 06-6365-8120

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第3四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第3四半期	357,659	△7.6	6,873	△37.1	8,486	△33.1	3,716	△35.7
21年3月期第3四半期	386,961	—	10,922	—	12,679	—	5,782	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第3四半期	18.01	16.39
21年3月期第3四半期	28.09	25.56

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第3四半期	344,229	156,262	45.4	756.67
21年3月期	323,044	153,994	47.6	745.56

(参考) 自己資本 22年3月期第3四半期 156,116百万円 21年3月期 153,838百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	6.25	—	6.25	12.50
22年3月期	—	6.25	—		
22年3月期(予想)				6.25	12.50

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	462,500	△9.2	7,100	△47.1	8,500	△44.5	3,700	△42.0	17.93

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第3四半期 206,740,777株 21年3月期 206,740,777株

② 期末自己株式数 22年3月期第3四半期 419,821株 21年3月期 401,899株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年3月期第3四半期 206,329,948株 21年3月期第3四半期 205,857,845株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載の連結業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。なお、予想の前提条件その他の関連する事項については、資料の5ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間（平成21年4月1日～平成21年12月31日）においては、一昨年秋の金融危機以降、小売を取り巻く環境は引き続き厳しい状況が続いております。

この状況に加え、阪急うめだ本店一期棟の開業に伴う売場面積縮小により、主力の百貨店事業を中心に売上が減少し、連結売上高は357,659百万円、前年同期比92.4%、営業利益6,873百万円、前年同期比62.9%となりました。

《連結業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)》

	金額(百万円)	前年同期比(%)
売上高	357,659	92.4
営業利益	6,873	62.9
経常利益	8,486	66.9
四半期純利益	3,716	64.3

事業別セグメントの概況は次の通りです。

【百貨店事業】

阪急うめだ本店では、建て替え工事の進捗に伴い、平成21年9月3日、南側部分に一期棟が開業し、売場面積は約68%（インクス館含む）に減少いたしました。一期棟開業後は、新規導入ブランドが売上を牽引している特選品や品揃えを強化したスイーツをはじめ、各フロアにおいて売上高が想定以上で推移し、当第3四半期の3ヶ月間（平成21年10月1日～平成21年12月31日）での一期棟（インクス館含む）の売上高は、前年同期比で76.6%となりました。また、平成21年8月26日に全館改装を行った阪神梅田本店では、品揃えを強化した食料品やサイズ婦人服、服飾品などが改装以降好調に推移し、当第3四半期の3ヶ月間（平成21年10月1日～平成21年12月31日）では、売上高は前年同期比99.5%と前年並みに推移いたしました。

支店におきましては、平成21年10月20日、JR尼崎駅前の商業施設「COCOE」の核テナントとして、店舗面積約5,000㎡のあまがさき阪神（兵庫県尼崎市）を開業いたしました。阪神百貨店で支持の高い食料品をはじめ、百貨店では初となるキッズダンスファッションを集積するなど、地域に密着した店作りを行い、開業後の業績は想定どおりに推移しております。

これらの結果、百貨店事業の当第3四半期連結累計期間の業績は、阪急・阪神両本店の開業・改装後の売上が好調に推移したことにより想定を上回りましたが、阪急うめだ本店の面積減少の影響が大きく、減収減益となりました。

《百貨店事業の業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)》

	金額(百万円)	前年同期比(%)
売上高	271,827	92.0
営業利益	5,221	62.6

【スーパーマーケット事業】

食品スーパーでは、消費者の低価格志向の高まりにより、引き続き客単価は低下しましたが、集客施策を強化し客数が前年並みに推移した結果、既存店ベースの売上高は前年同期比96.5%となりました。その一方で、引き続き新規出店を進め、本年度は阪急オアシスを3店舗新規出店いたしました。特に対面売場や生鮮食品の量り売りなど新しい取り組みを導入した千里中央店・御影店の売上は開業以来好調に推移し、当第3四半期ではこの取り組みを新たに既存3店舗へ導入いたしました。

これらの結果、スーパーマーケット事業の当第3四半期連結累計期間の業績は、新店効果が加わったことにより、売上高は増収となりました。

《スーパーマーケット事業の業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)》

	金額(百万円)	前年同期比(%)
売上高	67,440	101.3
営業利益	1,024	95.9

【PM(プロパティマネジメント)事業】

商業施設を管理運営する株式会社阪急商業開発では、引き続きショッピングセンターの売上低迷により賃料収入が減少し、また、ビジネスホテルを運営する株式会社アワーズイン阪急においても、ビジネス・観光需要の減少により客室稼働率が低下し、事業全体では減収減益となりました。

《PM事業の業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)》

	金額(百万円)	前年同期比(%)
売上高	6,281	92.9
営業利益	736	68.1

【その他事業】

その他事業においては、一部子会社の売却による影響もあり、減収減益となりました。そのような中、個別宅配事業を行う株式会社阪急キッチンエールでは、本年度も堺市や大阪東部などにサービスエリアを拡大するとともに、品揃えの充実やホームページのリニューアルなど、お客様の利便性向上に取り組み、増収増益となりました。

《その他事業の業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)》

	金額(百万円)	前年同期比(%)
売上高	12,108	66.3
営業利益	1,888	53.5

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末の総資産は344,229百万円となり、前連結会計年度末に比べ21,185百万円増加しました。これは主に、阪急うめだ本店の一期棟開業等による差入保証金の増加13,353百万円及び有形固定資産の増加5,629百万円などによるものです。

負債合計は187,966百万円となり、前連結会計年度末から18,917百万円増加しました。これは主に、上記の資金需要による長期借入金の増加19,917百万円などによるものです。

また、純資産は156,262百万円と前連結会計年度末から2,267百万円増加しました。これは利益剰余金が1,136百万円増加したほか、その他有価証券評価差額金が1,122百万円増加したことによるものです。

なお、自己資本比率は45.4%となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間の業績はほぼ予定通り推移しており、平成21年10月30日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

① 一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第3四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

② 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している固定資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

③ 繰延税金資産の回収可能性の判断

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等に著しい変化が生じておらず、かつ、一時差異等の発生状況に大幅な変動がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

④ 実地棚卸の省略

当第3四半期連結会計期間末の棚卸資産の算出に関して、一部の実地棚卸を省略し、第2四半期連結会計期間末に係る実地棚卸高等を基礎として合理的な方法により算出しております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	40,683	39,890
受取手形及び売掛金	26,179	20,613
有価証券	192	609
商品及び製品	17,057	16,128
仕掛品	200	102
原材料及び貯蔵品	651	684
繰延税金資産	2,776	5,025
短期貸付金	517	512
未収入金	3,808	3,738
その他	2,667	2,197
貸倒引当金	△135	△157
流動資産合計	94,600	89,344
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	49,797	44,592
機械装置及び運搬具（純額）	1,293	1,159
土地	32,639	32,493
建設仮勘定	3,250	3,785
その他（純額）	6,043	5,365
有形固定資産合計	93,025	87,396
無形固定資産		
のれん	17,246	17,971
その他	6,782	7,179
無形固定資産合計	24,028	25,151
投資その他の資産		
投資有価証券	63,810	64,163
長期貸付金	1,786	1,862
差入保証金	54,309	40,955
繰延税金資産	11,152	12,487
その他	1,568	1,719
貸倒引当金	△52	△35
投資その他の資産合計	132,575	121,153
固定資産合計	249,629	233,700
資産合計	344,229	323,044

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	38,781	30,456
1年内返済予定の長期借入金	166	238
未払法人税等	396	2,589
商品券	22,703	21,307
繰延税金負債	—	239
賞与引当金	2,894	4,613
店舗建替損失引当金	—	3,227
関係会社事業再編引当金	—	971
その他	23,681	25,202
流動負債合計	88,624	88,845
固定負債		
社債	20,000	20,000
長期借入金	40,838	20,921
繰延税金負債	9,917	9,294
再評価に係る繰延税金負債	348	348
退職給付引当金	15,562	18,292
役員退職慰労引当金	97	100
店舗建替損失引当金	1,187	1,178
商品券等回収引当金	1,866	1,784
長期未払金	2,295	795
長期預り保証金	7,224	7,433
その他	4	55
固定負債合計	99,342	80,204
負債合計	187,966	169,049

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	17,796	17,796
資本剰余金	37,172	37,172
利益剰余金	96,744	95,607
自己株式	△290	△280
株主資本合計	151,423	150,296
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	5,026	3,903
土地再評価差額金	42	42
為替換算調整勘定	△376	△404
評価・換算差額等合計	4,692	3,541
新株予約権	45	45
少数株主持分	100	111
純資産合計	156,262	153,994
負債純資産合計	344,229	323,044

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
売上高	386,961	357,659
売上原価	275,642	257,605
売上総利益	111,319	100,053
販売費及び一般管理費	100,397	93,180
営業利益	10,922	6,873
営業外収益		
受取利息	263	102
受取配当金	555	811
諸債務整理益	1,154	1,108
その他	1,075	1,057
営業外収益合計	3,048	3,079
営業外費用		
支払利息	33	231
商品券等回収引当金繰入額	871	771
その他	386	463
営業外費用合計	1,291	1,466
経常利益	12,679	8,486
特別利益		
投資有価証券売却益	145	204
固定資産売却益	58	—
店舗建替損失引当金取崩益	58	—
特別利益合計	262	204
特別損失		
減損損失	—	517
固定資産除却損	506	370
新店舗開業費用	552	326
退職給付制度改定損	—	236
店舗建替関連損失	169	95
事業再編費用	754	—
投資有価証券評価損	378	—
その他	243	47
特別損失合計	2,605	1,594
税金等調整前四半期純利益	10,336	7,096
法人税、住民税及び事業税	2,579	547
法人税等調整額	1,954	2,842
法人税等合計	4,533	3,390
少数株主利益又は少数株主損失(△)	20	△10
四半期純利益	5,782	3,716

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	10,336	7,096
減価償却費	7,258	7,508
減損損失	—	517
のれん償却額	725	725
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△147	△3
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△1,947	△1,575
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	197	△2,343
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△444	4
商品券等回収引当金の増減額 (△は減少)	167	82
関係会社事業再編引当金の増減額 (△は減少)	—	△971
受取利息及び受取配当金	△818	△913
支払利息	33	231
持分法による投資損益 (△は益)	△31	△14
固定資産売却損益 (△は益)	△58	—
固定資産除却損	506	370
有価証券及び投資有価証券売却損益 (△は益)	△145	△204
有価証券及び投資有価証券評価損益 (△は益)	378	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△6,258	△5,962
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△4,102	△1,232
仕入債務の増減額 (△は減少)	6,414	8,685
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△1,190	△160
その他	△721	3,047
小計	10,150	14,886
利息及び配当金の受取額	773	906
利息の支払額	△23	△222
法人税等の支払額	△6,501	△2,550
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,399	13,019

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額 (△は増加)	2,099	△7,500
有形固定資産の取得による支出	△16,350	△16,587
有形固定資産の売却による収入	368	6
無形固定資産の取得による支出	△3,069	△2,179
無形固定資産の売却による収入	14	—
投資有価証券の取得による支出	△19,897	△8
有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入	1,232	2,630
長期貸付金の回収による収入	36	25
差入保証金の差入による支出	—	△15,247
差入保証金の回収による収入	—	368
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	—	1,514
投資活動によるキャッシュ・フロー	△35,565	△36,977
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	20,000	20,000
長期借入金の返済による支出	△162	△155
自己株式の取得による支出	△2,921	△12
自己株式の売却による収入	52	2
配当金の支払額	△2,581	△2,579
少数株主への配当金の支払額	△3	—
その他	—	△33
財務活動によるキャッシュ・フロー	14,384	17,221
現金及び現金同等物に係る換算差額	△83	28
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△16,865	△6,706
現金及び現金同等物の期首残高	54,687	34,866
現金及び現金同等物の四半期末残高	37,822	28,159

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

1. 事業の種類別セグメント情報

前第3四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日）（単位：百万円）

	百貨店事業	スーパー マーケット事業	PM事業	その他 事業	計	消 去 又は全社	連結
売 上 高							
(1)外部顧客に対する売上高	295,370	66,550	6,764	18,275	386,961	—	386,961
(2)セグメント間の内部売上高 又は振替高	72	2,710	436	16,923	20,142	(20,142)	—
計	295,443	69,260	7,201	35,198	407,104	(20,142)	386,961
営 業 利 益	8,335	1,068	1,081	3,527	14,013	(3,090)	10,922

当第3四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日）（単位：百万円）

	百貨店事業	スーパー マーケット事業	PM事業	その他 事業	計	消 去 又は全社	連結
売 上 高							
(1)外部顧客に対する売上高	271,827	67,440	6,281	12,108	357,659	—	357,659
(2)セグメント間の内部売上高 又は振替高	172	3,147	444	14,671	18,436	(18,436)	—
計	272,000	70,588	6,726	26,780	376,095	(18,436)	357,659
営 業 利 益	5,221	1,024	736	1,888	8,871	(1,997)	6,873

(注) 事業区分の方法： 当社企業集団の事業区分は事業内容を勘案して決定しております。

2. 所在地別セグメント情報

所在地別セグメント情報は、全セグメントの売上高の合計に占める日本の割合が90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 海外売上高

海外売上高は、連結売上高の10%未満のため、記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

6. その他の情報

(重要な後発事象)

(1) 株式報酬型ストックオプションとしての新株予約権の割当てについて

当社は、当社及び当社子会社の株式会社阪急阪神百貨店の取締役（社外取締役除く）及び執行役員の中長期的な業績向上へのインセンティブを高めることを目的として、当社株式の価値と連動する株式報酬型ストックオプションを付与することとしており、平成22年1月28日開催の取締役会において平成21年度における株式報酬型ストックオプションを付与するために、下記のとおり新株予約権の割当てに関して決議いたしました。

1. 募集新株予約権の名称

エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社2010年3月発行新株予約権
(株式報酬型ストックオプション)

2. 募集新株予約権の総数 165個

(2) 株式会社阪急阪神百貨店「四条河原町阪急」の営業終了について

当社子会社の株式会社阪急阪神百貨店は、平成22年1月27日開催の取締役会において、「四条河原町阪急」の営業終了を決議いたしました。

四条河原町阪急は、昭和51年の開店以来、ヤングのための先進的ファッションを展開する店として、地元京都の皆様にご愛顧をいただいております。

しかしながら、競合環境の変化する中、店舗規模が狭隘なため、都心で百貨店事業を継続するのは困難と判断し、平成22年秋を目途に、やむなく営業を終了することといたしました。

これに伴い、当第3四半期において以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

(単位：百万円)

会社名	資産グループ名	用途	種類	場所	金額
(株)阪急阪神百貨店	四条河原町阪急	店舗	建物及び構築物 機械装置及び運搬具 その他	京都市下京区	517

【参考資料】

株式会社阪急阪神百貨店の業績について

阪急百貨店と阪神百貨店は、平成20年10月1日付けで合併いたしました。平成21年度実績に対する前年同期比につきましては、平成20年4月1日から平成20年9月30日までの旧阪神百貨店の実績を含めた実質ベースの数値と対比しております。

1. 第3四半期の業績

(単位:百万円)

	平成22年3月期第3四半期実績	
	金額	前年同期比
売上高	270,964	92.1%
売上総利益	69,040	88.6%
その他の営業収入	1,035	94.1%
営業総利益	70,076	88.6%
販売費及び一般管理費	64,681	91.8%
営業利益	5,394	63.0%

2. 店別売上高

(単位:百万円)

	平成22年3月期第3四半期実績	
	金額	前年同期比
阪急うめだ本店(注)1	112,773	84.5%
千里阪急	13,172	91.6%
堺 北花田阪急	7,571	97.4%
川西阪急	14,212	91.4%
宝塚阪急	7,081	89.3%
神戸阪急	7,429	83.0%
三田阪急	1,085	92.8%
西宮阪急(注)2	13,995	495.4%
四条河原町阪急	3,381	80.7%
有楽町阪急	7,334	80.0%
都筑阪急	6,212	90.0%
阪神梅田本店	68,510	95.7%
阪神・にしのみや	3,570	93.2%
さんのみや・阪神食品館	893	89.8%
阪神・御影	1,453	63.3%
あまがさき阪神(注)3	1,120	-
店舗事業計	269,799	92.7%
広域事業	1,165	34.8%
合計	270,964	92.1%

(注)1 イングス館、メンズ館を含む

(注)2 平成20年11月26日開店

(注)3 平成21年10月20日開店

3. 商品別売上高

(単位:百万円)

	平成22年3月期第3四半期実績	
	金額	前年同期比
衣料品	93,061	89.1%
身の回り品	38,019	89.9%
家庭用品	10,564	98.1%
食料品	88,704	96.6%
食堂・喫茶	6,302	105.9%
雑貨	30,556	86.4%
サービス	2,519	104.4%
その他	1,236	99.9%
合計	270,964	92.1%